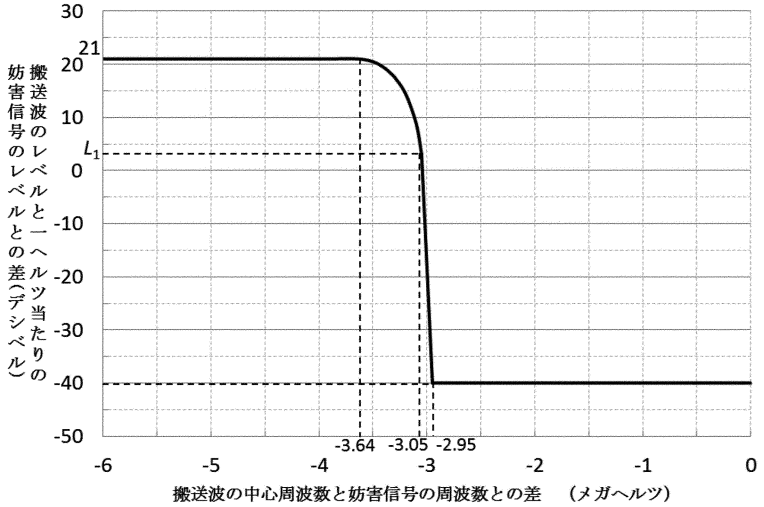
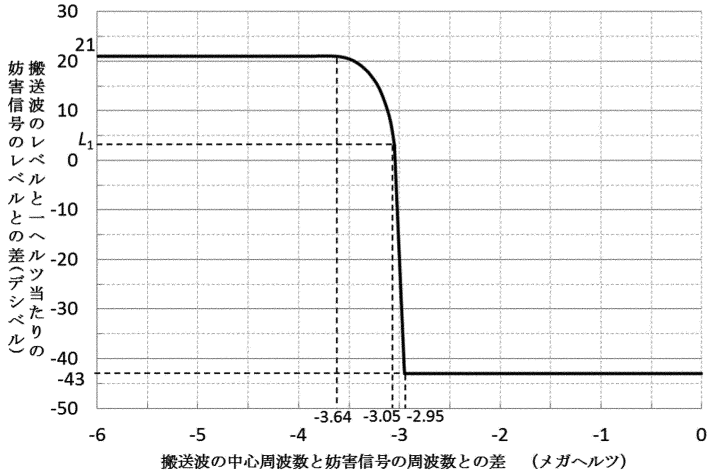
ハ　副搬送波の変調の型式が四〇九六値直交振幅変調であって符号化率五分の四の場合



ニ　副搬送波の変調の型式が四〇九六値直交振幅変調であって符号化率六分の五の場合



注１　一ヘルツ当たりの搬送波のレベルの平均値を基準値（０dB）とする。

注２　スペクトルマスクの値は、次式のとおり。なお、搬送波の中心周波数と妨害信号の周波数との差（MHz）をf、搬送波のレベルと一ヘルツ当たりの妨害信号のレベルとの差（dB）をLとする。

・fが－3.64MHz以下の場合：$L=21$［dB］

・fが－3.64MHzを超え－3.05MHz以下の場合：

$$L=21+20\log_{10}\left\{\sqrt{\frac{1}{2}\left(1-\sin\left(\frac{\pi}{2}\times\frac{2\ (f+6)\ -f_0}{\alpha\cdot f_0}\right)\right)}\right\}\ \text{［dB］}$$

なお、$f_0=5.360537$［MHz］、$\alpha=0.12$とする。

・fが－3.05MHzを超え－2.95MHz未満の場合：

$L=-10\ (L_1-\mathrm{X})(f+2.95)\ +\mathrm{X}$

なお、$L_1=21+20\log_{10}\left\{\sqrt{\frac{1}{2}\left(1-\sin\left(\frac{\pi}{2}\times\frac{2\ (f_1+6)\ -f_0}{\alpha\cdot f_0}\right)\right)}\right\}$［dB］とする。

ここで、$f_0=5.360537$［MHz］、$f_1=-3.05$［MHz］、$\alpha=0.12$とする。

また、Xの値は、次表のとおりとする。

副搬送波の変調の型式と符号化率	ノイズ妨害比X
二五六値直交振幅変調	－29dB
一〇二四値直交振幅変調	－36dB
四〇九六値直交振幅変調　符号化率４／５	－40dB
四〇九六値直交振幅変調　符号化率５／６	－43dB

・fが－2.95MHz以上の場合：$L=\mathrm{X}$［dB］

別図第四号(2)の次に次のように加える。

(3)　搬送波の変調の型式が直交周波数分割多重変調である場合

イ　副搬送波の変調の型式が二五六値直交振幅変調である場合

